＜応募状況＞

部　門	応募数
一般の部（自由題）	524首
一般の部（題　詠）	503首
小　学　生　の　部	637首
中　学　生　の　部	1,269首
高　校　生　の　部	709首
計	3,642首

第９回青の國若山牧水短歌大会　入賞作品

＜青の國短歌大賞＞

自転車のかごに世界の産声を満たして走る新聞少年　　岸本　恵美　　大分県大分市

＜一般の部　自由題＞

〇最優秀賞

梅雨晴の空を見上げて子どもらは「おかえりなさい」と太陽に言ふ　　金澤　諒和　　大分県大分市

〇優秀賞

止まるからオルゴールはいい人生も同じと思えばいとおしくなる　　大野　美波　　埼玉県入間市

巣に小（ち）さき羽ばたきあれば青空を切り取るように燕飛び来る　　久保田　聡　　神奈川県川崎市

〇優良賞

悔いの無き一日となれと洗面の鏡の曇りを丹念に拭く　　田原　帶刀　　宮崎県日向市

もっきりを一気に飲みて満杯の梅雨の近江に二杯目を注ぐ　　丸山　勝也　　愛知県稲沢市

断捨離の難を免れて安堵する書棚に並ぶ作家の面々　　鈴木　睦代　　宮崎県日向市

○佳作

卒寿なる母そばにいて笑い合う面白きこと何も無いのに	宇都宮　千瑞子	愛媛県松山市
空を見るたび鳥たちが尋ね来るまだ人間でいるつもりなの？	古賀　由美子	佐賀県唐津市
玉ねぎを吊し終えればちぐはぐに楽譜の如し夕焼け小焼け	伊藤　益加	宮崎県延岡市
さよならは再会できるから言える逢えぬものなら言えぬさよなら	渡辺　勇三	奈良県宇陀市
アパートのクローゼットのその隙間　自由と孤独座っていたり	大谷　彩	千葉県市川市
散り敷ける合歓（ねむ）の花びら踏まぬようケンケン跳びして小学生ゆく	井田　あさみ	滋賀県東近江市
ヒツウチの電話のベルが鳴り続く一人暮らしの深夜の刻を	羽良　キヨ子	宮崎県都城市
ふるさとの神社に残る天井絵幽（かそ）けき青に波頭を認む	天王谷　一	徳島県小松島市
見過ごしてしまひさうなる小さき像マンショと知れば深き影あり	大川　教子	宮崎県都城市
片方の手の平にのる捨て猫の小さな鼓動ほのかな温もり	一柳　いくみ	岡山県岡山市
読むたびに泣く「ごんぎつね」泣きたくて読んでいるような私もいたり	片伯部　りつ子	宮崎県延岡市
墓参りやけに線香がつきにくいかの日の親不幸あやまりている	浜松　栄一	宮崎県延岡市
ダイヤ三つ首から提げて勝ち組のふりして臨む同窓会に	浦上　紀子	富山県射水市
おはようとおおきにおかえりおいでやすおのつく言葉にある思いやり	林田　麻裕	京都府京都市
少しだけ背伸びしていたあの頃がはにかんでいる実家の本棚	和田　江里香	岡山県岡山市
野良猫を自由猫と呼ぶイタリアで真昼の月に大きくジャンプ	碧井　文果	福岡県北九州市
春の陽がほつこり渡りてゆきたるか子どものタオルの赤鬼わらふ	牧田　明子	神奈川県藤沢市
水撒けば出来そこないの唐辛子嗤（わら）うがいいさ曲がるがいいさ	水野　大雅	愛知県名古屋市
口下手を補うような筆圧の強い手紙が明け方届く	雪吉　千春	東京都新宿区
平成が終わったんだよ　柴犬はきのうと同じ顔して眠る	岩﨑　雄大	埼玉県和光市

＜一般の部　題詠「歩」＞

○最優秀賞

反対のルートを選び頂上で父母は出会った　その山歩く	金子　歩美	群馬県東吾妻町

○優秀賞

プシケがあるプシケがないと指差して野道歩きし十六歳(じゅうろく)の春	大賀　康男	愛媛県新居浜市
ひらかなを手のひらに載せぽつぽつとこぼして歩く万葉の里	山本　明	千葉県市川市

○優良賞

逃げられぬ光をざぶりと蹴る子らの黄の長靴が育てる歩み	木田　昨年	福岡県久留米市
満員の乗客たちが半歩詰め車いすへと小さな隙間	太田　省三	大阪府池田市
歩みよる気配すらなき二国あり先の大戦知らぬ指導者	田上　嘉尋	宮崎県宮崎市

○佳作

目を離す隙にでで虫消えにけり弛まぬ歩み怖しと想ふ	安田　清一	千葉県木更津市
凧一つ上がらぬ峡の田の道を電柵回りて歩む年明け	伊藤　益加	宮崎県延岡市
「あれは何？」幼(おさな)は歩むその一歩一歩に小さな発見をする	岸本　恵美	大分県大分市
牧水の歌碑の誘える百草園きみと歩みしころに変わらず	野上　卓	東京都世田谷区
ケイタイを使ふ用事のなけれどもしかと記録の花見の歩数	狩集　祥子	東京都世田谷区
畔歩く早乙女の顔ほとんどが皺深くある御田祭なり	清末　悦子	宮崎県都城市
この世よりほかの世知らず黄昏を妻の歩幅に合はせて歩む	河野　正	宮崎県延岡市
キミからの一歩の距離が遠かったその手を掴み損ねた夏に	大野　美波	埼玉県入間市
柔らかな踵(かかと)は土を知らなくて歩く痛みも知らぬ温もり	服部　明日檜	東京都大田区
牧水の「いざ唇(くち)を君」の歌想う日向岬をふたり歩けば	日高　尚子	宮崎県日向市
肩丸め嵐の中を歩み行けば犬は時おり吾を窺う	石井　多壽子	神奈川県茅ヶ崎市
三歩目はちょっと大きくふみだして初めての街始まる旅よ	和田　江里香	岡山県岡山市
雨あがりカッパ着た子ら腕(かいな)上げ怪獣のごとき影で闊歩す	近藤　千壽	神奈川県藤沢市
「創作」の終刊むかへしみじみと短歌誌の歩み積みあげてみる	中瀬　房子	宮崎県宮崎市
杖無しに歩くリハビリ重力にあらがう生(せい)を学び直しぬ	中村　英俊	北海道伊達市
きみがいたときの一歩と僕だけの一歩が違うと気づく夏祭り	今井　彩美	宮崎県新富町
歩行者のひとりたりけん轢死体街の外れに横たう狸	別府　紘	宮崎県国富町

いくつかの医院を歩いて巡る夫九十二歳元気の素なり	岸　和子	熊本県熊本市
手をつなぎ歩みし幼は棟上げの主（あらじ）となりてせんぐ餅を撒く	鈴木　睦代	宮崎県日向市
歩みきて女はわが干す梅干を「おいしさうやな」ふはり言ひたり	阿久津　惠美	東京都大田区

＜小学生の部＞

○最優秀賞

姉ちゃんも食べるといいなこのピーマン宮崎を出て東京へ行く	門田　藍子	新富町立富田小学校	３年

○優秀賞

つばめからふんをかけられおどろいた水てっぽうでかみの毛あらう	江藤　銀	美郷町立美郷南学園	２年
むしかごとむしあみもってせみとりへぱっとつかまえまたねとかえす	黒木　蒼天	日向市立大王谷学園	４年

○優良賞

橋の上車が一、二、三台と速く走って新しい風	池澤　芽生	日向市立美々津小学校	５年
鏡から見える自分はどんな顔毎日ちがう新しい自分	川口　美水姫	美郷町立美郷南学園	６年
つばめのこくちからくちにえさもらうちゅちゅちゅとなくよおおきくなあれ	前田　仁	宮崎市立内海小学校	１年

○佳作

なつやすみかぞくみんなでかわにいきおよいでもぐっていきものさがし	鈴木　琉仁	日向市立財光寺小学校	１年
みずをのむむしとりをするせみをとるあいすをたべるなつはたのしい	下田　世良	日向市立財光寺小学校	１年
あさがおの葉っぱにひそむあまがえるぴょんととびでてしりもちをつく	今村　成臣	新富町立富田小学校	４年
かぞくとねたべてひんやりカキゴオリわたしはいちごあなたはなあに	炭床　如紗羅	新富町立富田小学校	４年
夏になり風りんチリンとなっているそこは空気が涼しくなった	小野　紡	新富町立富田小学校	５年
雨がふるかさにあたって気持ちいなわたしだったらどんな音かな	尾﨑　日葵	新富町立富田小学校	５年
朝起きて雨ぱらぱらとふっているまるで「起きて」と言ってるようだ	門脇　愛莉	新富町立富田小学校	６年
雨がふりかさにあたるよ音色がねぽとぽとぽろろぽとぽとぽろろ	澤田　昊子	新富町立富田小学校	６年
トンボたちなえにとまって羽やすめまた飛んで行く空にむかって	新地　楓和	新富町立富田小学校	６年
塩見地区いい人ばかり住んでいて野菜くれるよ笑顔くれるよ	松田　友喜	日向市立塩見小学校	６年

おおだまをりょうてでうまくころがすよすながざらざらたまはぷるぷる	尾﨑　羽奏	美郷町立美郷南学園	１年
ひらがなのひがむずかしいにがてだようまくかけたらうれしいです。	上村　璃空	美郷町立美郷南学園	１年
うそをつくへんなうそつく楽しいなおこられるなあげんこつされる	中森　瑛介	美郷町立美郷南学園	２年
えいごがすきせんせいがおしえたアッポーはぼくのすきなまあるいりんご	松田　紅葉	美郷町立美郷南学園	２年
夏の川暑いときには気持ちいいつったりついたりつれなかったり	橋口　侑史	美郷町立美郷南学園	５年
お手伝いありがとうと言われ気づいたよ私もお母さんにありがとう	東　結菜	日向市立大王谷学園	５年
くるしさにじゅくをたちいでてながむればいずこもおなじなつのゆうぐれ	宇都宮　悠	日向市立大王谷学園	６年
みみずはねかみさまみたいにえらいんだつちをきれいにしてくださるよ	山床　拓眞	日向市立坪谷小学校	２年
旅に出る後ろ姿がかっこいいぼくもなりたいあの父のように	福田　遼真	日向市立富高小学校	６年
さしみにはしょうゆとわさびと日向夏一緒に食べるとおいしさ増える	長友　宏醍	日向市立富高小学校	６年

＜中学生の部＞

○最優秀賞

女神像微笑んでいないなぜだろうなぜなら今は自由ではない	遊亀　生琉	新富町立富田中学校	２年

○優秀賞

虫や葉に鼻を近づけにおいかぐそれぞれ違う命のにおい	長友　翔舞	西都市立都於郡中学校	２年
一点に思いをこめて竿を引く今年の初物鮎をもとめて	赤木　謙心	延岡市立北川中学校	３年

○優良賞

授業中君と目が合うその時が私の恋をあざやかにする	竹之内　玲子	宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校	１年
帰り道兄と話したふざけ話自販機の中にきっと人いる	小山　正則	宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校	２年
病室の窓から見える町並みを散歩してみる心の中で	菊池　颯太郎	日向市立東郷学園	７年

○佳作

はにかんでハハハと笑う僕の母同じ顔してハハハと笑う	香西　咲空	西都市立都於郡中学校	２年
腰痛になって初めて知ったのは腰を曲げてる祖父母の気持ち	細川　玲菜	宮崎市立高岡中学校	２年
ラベンダー時がたつほど黒くなりむらさき色の時はみじかし	橋倉　陽向子	門川町立西門川中学校	２年

二度見した宮崎の山きれいだなおもわず母にスマホをかりた	平片　隆斗	日南市立油津中学校	２年
窓ごしにきれいな夕日輝やいてふとつぶやいた「生きてて良かった」	立野　真珠	日南市立油津中学校	２年
きのうおでん弁当おでん夜おでん給食おでんコンビニおでん	新名　咲太郎	鵬翔中学校	２年
教室の窓から見える夕景色見ていたのかな古の民	斉藤　翔大	鵬翔中学校	２年
悔しくてグラブを外したその瞬間泣いてもいいよと雨が降りだす	横山　夕華	延岡市立北川中学校	２年
シベリアに我が曾祖父は花と散る若人は忘れ繰り返される	江島　璃駆	宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校	１年
友達のジャージを借りて着てしまう一時間だけ名字が変わる	服部　香菜乃	宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校	１年
懸命に人が話すと揚げ足が浮かぶ自分の心のみにくさ	近藤　桃代	宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校	２年
「全部イヤ」自分が落ち込んでる時は鳥もだいたい低空飛行	荒川　紗珠音	宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校	３年
電車内サラリーマンに高校生今日という日をどう生きたのか	後藤　慎之介	宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校	３年
こっち見ろよアイツと話す君の背にセミの抜け殻くっつけてやった	田品　穂乃	宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校	３年
かがり火が消えて鹿の音聞くころに神楽屋のうえ星くずが降る	髙妻　尚生	宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校	３年
短歌はね難しいけどおもしろい言葉以上の意味があるから	谷口　大紀	延岡市立南中学校	２年
聞かされたつまらん話先生からねてはおこられまたねておこられ	吉岡　将也	宮崎市立久峰中学校	２年
ナイフのよう自由に泳ぐイルカたち心うばわれ息が止まった	橋口　枇奈	宮崎市立久峰中学校	２年
私ん家母と私の二人だけもらった愛は海より深い	松本　静流	日向市立財光寺中学校	２年
赤トンボ静かに一匹入り込みみだれつつある授業の空気	小田　康平	日向市立財光寺中学校	２年

＜高校生の部＞

○最優秀賞

命とはどの言葉よりむなしくてある日突然重さに気づく	橋本　怜	宮崎県立高千穂高等学校	２年

○優秀賞

作業着にあいた穴見て思い出す溶接していたあの日の熱さ	甲斐　輝	宮崎県立日向工業高等学校	３年
信号を待つ人数えている昼の点滴わたしに命はもどる	船ヶ山　明里	宮崎県立宮崎商業高等学校	３年

○優良賞

誰が何と言おうと絶対そうなのだ月は私についてきている	石川　絢子	宮崎県立宮崎西高等学校	１年
大好きと何度言っても首かしげ理解していない愛犬の顔	伊東　さな	宮崎県立宮崎西高等学校	１年
雪道にぽっかり出来た足跡を君のものかななんて考える	稗島　由花	宮崎県立宮崎商業高等学校	３年

○佳作

いとしさは入学したての弟の制服姿の余った袖口	若松　歩乃佳	鵬翔高等学校	２年
牛を見て今日も元気かと聞いてみるいつ頃からか年をとったな	渡邉　玲音	宮崎県立高鍋農業高等学校	２年
高農は学科が４つ僕食科夏の実習汗水だらけ	佐藤　翔太	宮崎県立高鍋農業高等学校	２年
泣いている父を窓から眺める僕あれから１０年後悔ばかり	新垣　愛翔	宮崎県立高鍋農業高等学校	２年
農作業汗水流してがんばった夏にてきしたスイカの定植	樺木野　蒼	宮崎県立高鍋農業高等学校	１年
生きるため嫌でもかよう学校に学んだことは役にたつかな	寺原　優香	宮崎県立高鍋農業高等学校	２年
そわそわと校門で待つ君を見てわざとゆっくり近づいてみる	白須　光	宮崎県立延岡商業高等学校	１年
気づいてた？君の言葉で傷を負い君の言葉で笑顔になれた	神志那　蒼空	宮崎県立延岡商業高等学校	１年
あの人に初めて湧いた感情の意味が分からずかれこれ二年	長友　萌恵	宮崎県立延岡商業高等学校	３年
今君が見ている空と同じ空眺めるだけで近くに感じる	矢野　胡桃	宮崎県立延岡商業高等学校	３年
じいちゃんの大好きだった酒まんじゅうお墓の上に供えておくよ	和田　彩花	宮崎県立延岡商業高等学校	２年
夏の日に海で拾った宝物耳に当てると一人だけの海	田中　大陸	宮崎県立日向工業高等学校	３年
奥山に赤い光が顔を出しゆっくりとまた今日が始まる	荒砂　美月	宮崎県立宮崎西高等学校	１年
あつあつのプールサイドで飛び跳ねるフライパンのソーセージのよう	金子　万葉	宮崎県立宮崎西高等学校	１年
抽斗の奥に一枚残る紙伝えたかった祖母への感謝	加世田　優駿	宮崎県立宮崎西高等学校	１年
新学期桜並木を抜けながら昨日とちがう私が待っている	木下　花梨	宮崎県立宮崎西高等学校	１年
好きだけど好きと言えないこの関係声に出したら消えちゃいそうで	清水　夏鈴	宮崎県立宮崎商業高等学校	３年
桜散り夏の匂いを感じた日緑が似合う君が好きです	宮崎　愛弓	宮崎県立宮崎商業高等学校	３年
つんつんととんがるつららの先端にきらめくしずく見てみたいです	丸田　琉月	宮崎県立宮崎商業高等学校	３年